

採用選考活動開始時期変更の影響（留学・教育実習）

【採用選考活動開始時期が8月から6月になったことによる留学への影響】

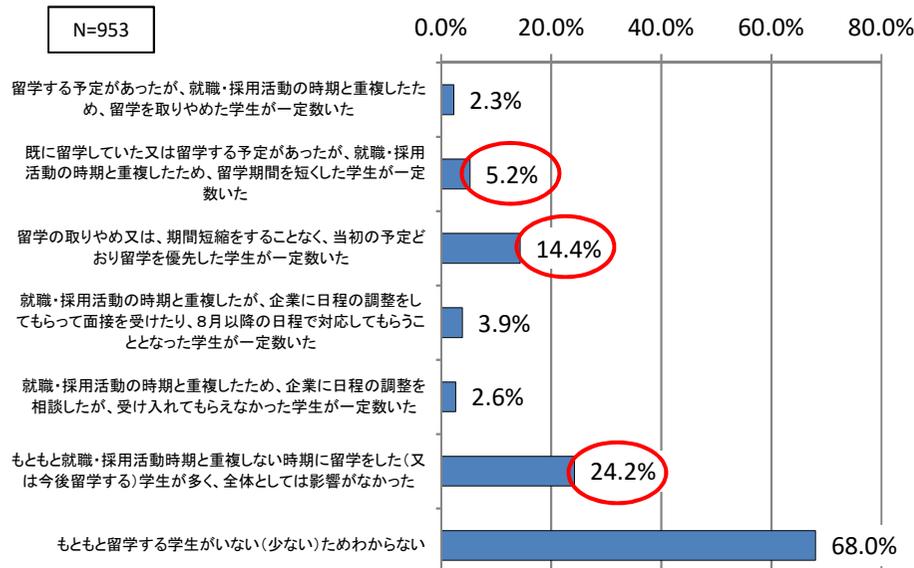
- ①もともと就職・採用活動時期と重複しない時期に留学をした(又は今後留学する)学生が多く、全体としては影響がなかった（24.2%）
 - ②留学の取りやめ又は、期間短縮をすることなく、当初の予定どおり留学を優先した学生が一定数いた（14.4%）
 - ③既に留学していた又は留学する予定があったが、就職・採用活動の時期と重複したため、留学期間を短くした学生が一定数いた(5.2%)
- ※「もともと留学する学生がいない(少ない)ためわからない」が68.0%と最も多い。

【採用選考活動開始時期が8月から6月になったことによる教育実習受講者への影響】

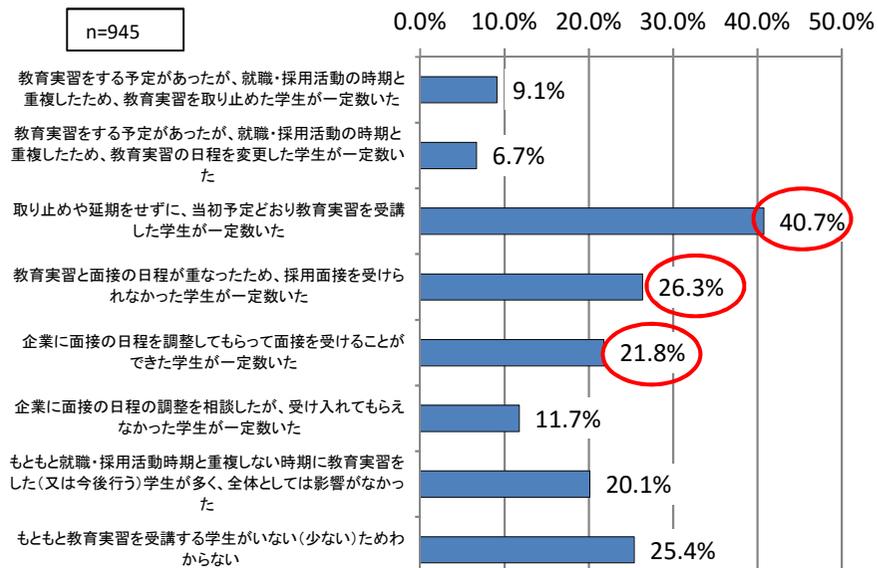
- ①取り止めや延期をせずに、当初予定どおり教育実習を受講した学生が一定数いた（40.7%）
 - ②教育実習と面接の日程が重なったため、採用面接を受けられなかった学生が一定数いた（26.3%）
 - ③企業に面接の日程を調整してもらって面接を受けることができた学生が一定数いた（21.8%）
- ※「もともと教育実習を受講する学生がいない(少ない)ためわからない」は25.4%

採用選考活動が8月から6月に変更されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の留学にどのような影響がありましたか

採用選考活動が8月から6月に変更されたことにより、本年度卒業・修了予定者である学生の教育実習にどのような影響がありましたか。



※大学全体の状況として、「当てはまるもの」を最大3つ選択
※1,005校から無回答52校を除外



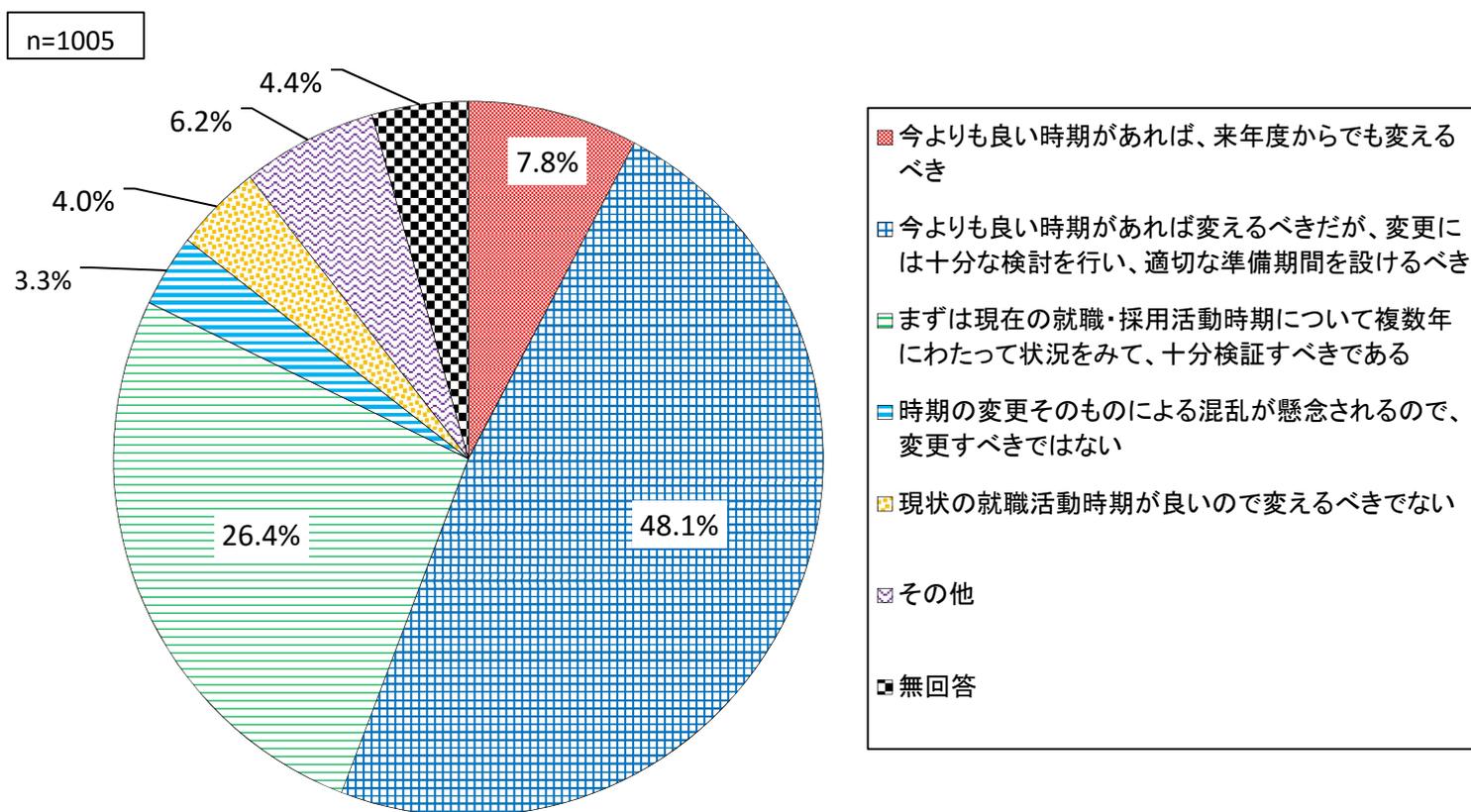
※大学全体の状況として、「当てはまるもの」を最大3つ選択
※1,005校から無回答60校を除外

就職・採用活動時期の変更について、どのように考えるか

【各大学において、就職・採用活動開始時期を変更することをどのように考えているか】

- ①今よりも良い時期があれば変えるべきだが、変更には十分な検討を行い、適切な準備期間を設けるべき(48.1%)
- ②まずは現在の就職・採用活動時期について複数年にわたって状況を見て、十分検証すべきである(26.4%)、
- ③今よりも良い時期があれば、来年度からでも変えるべき(7.8%)

就職・採用活動開始時期を変更することについてどのように考えていますか



就職・採用活動における学生に対する企業の配慮

【配慮していると回答した割合が、配慮していないとの回答より多かった項目】

・個別の面接日時等の設定に当たり、余裕をもって連絡が行われていた。 配慮している(46.2%) 配慮していない(23.9%) など

【配慮していると回答した割合が、配慮していないとの回答より少なかった項目】

・留学経験者向けのスケジュールを別途示すなど留学が不利にならないようにしていた。「配慮している」(6.4%) 「配慮していない」(18.1%)

・教育実習の妨げにならないよう日程変更に応じるなどの配慮があった。「配慮している」(19.1%) 「配慮していない」(27.8%)

【概ね同程度であった項目】

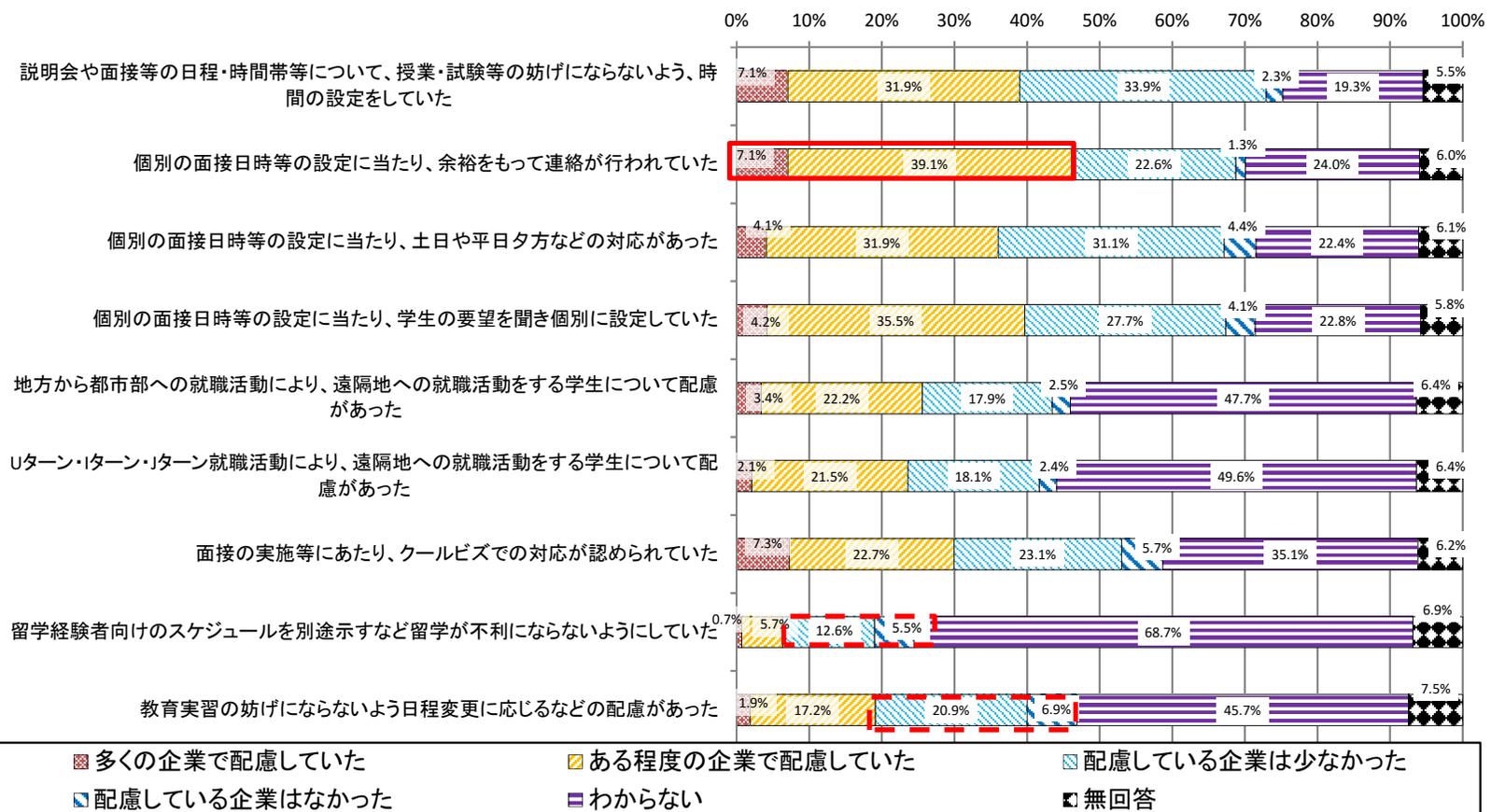
・説明会や面接等の日程・時間帯等について授業・試験等の妨げにならないよう、時間の設定をしていた。「配慮している」(39.0%) 「配慮していない」(36.2%)

・個別の面接日時等の設定に当たり土日や平日夕方などの対応があった。「配慮している」(36.0%) 「配慮していない」(35.5%) など

※「配慮している」とは、「多くの企業で配慮していた」「ある程度の企業で配慮していた」という回答の合計、「配慮していない」とは、「配慮している企業はなかった」「配慮している企業は少なかった」という回答の合計

本年度の就職・採用活動について、企業側は学生に配慮をしていましたか

n=1005



学生からの相談状況(学業と面接等との重複)

<授業、ゼミ、実験など>

- ・授業、ゼミ、実験などの時間と面接等の日程等が重なったため、企業に配慮してほしい旨の相談を受けた大学は43.7%
- ・相談件数は、「5件以下」(40.8%)が最も多く、続いて「6～10件以下」(26.4%)、「11～20件以下」(18.7%)

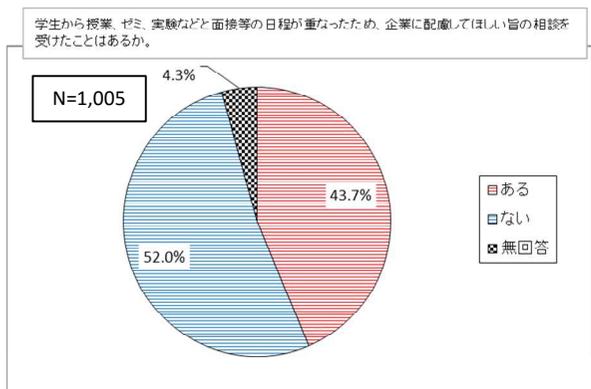
<留学>

- ・学生から留学時期と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程にしてほしい旨の相談を受けた大学は4.8%
- ・相談件数は、「5件以下」(75.0%)、「6～10件以下」(10.4%)、「11～20件以下」「31～40件以下」(ともに6.3%)

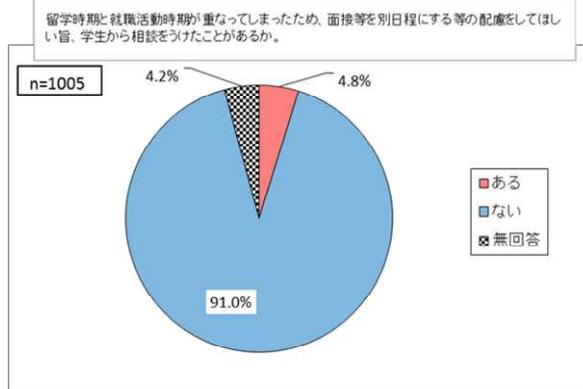
<教育実習>

- ・学生から教育実習の時期と就職活動時期が重なってしまったため、面接等を別日程してほしい旨の相談を受けた大学は33.8%
- ・相談件数は、「5件以下」71.5%、「6～10件以下」(15.6%)、「11～20件以下」(7.1%)

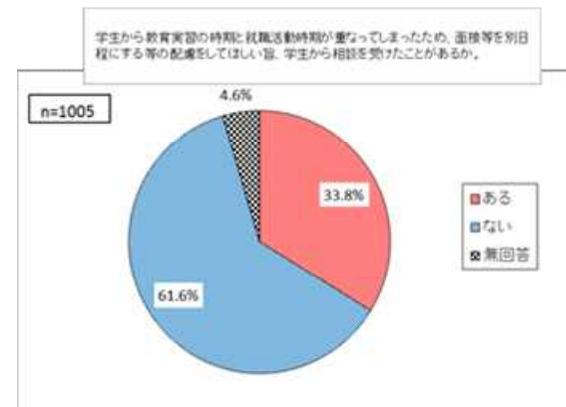
<授業、ゼミ、実験など>



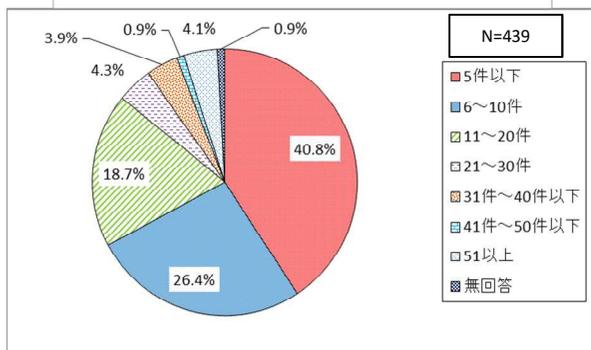
<留学>



<教育実習>

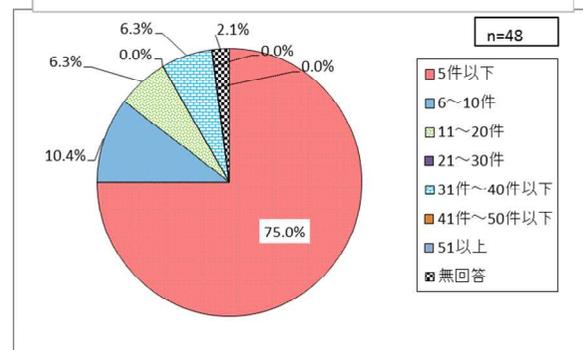


学生からの相談件数(授業、ゼミ、実験との面接が重なった時)



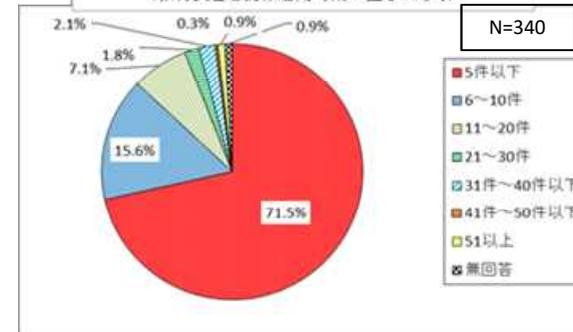
※相談を受けたことがあると回答した439校に質問

学生からの相談件数(留学時期と就職活動時期が重なった時)



※相談を受けたことがあると回答した48校に質問

学生からの相談件数(教育実習と就職活動時期が重なった時)



※相談を受けたことがあると回答した340校に質問

企業の対応(授業、ゼミ、実験と面接が重なった時)

【大学から直接相談した場合の企業の対応】

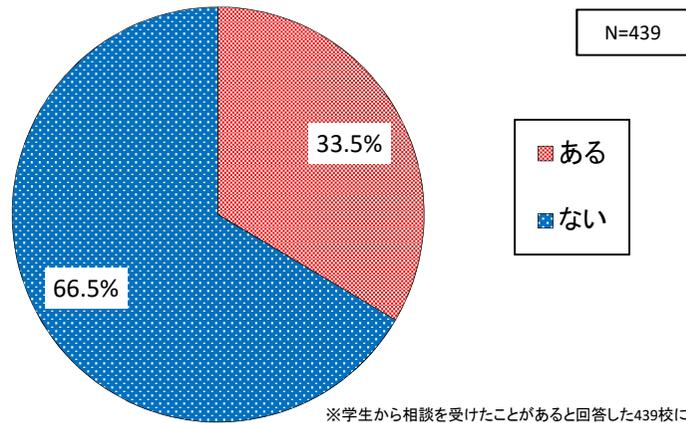
学生の相談を受け、33.5%が大学から企業に相談をしており、結果、「ほぼすべての企業で配慮してくれた」「対応してくれた企業のほうが多い」と回答した大学の合計は76.2%

【配慮できなかった企業の理由】

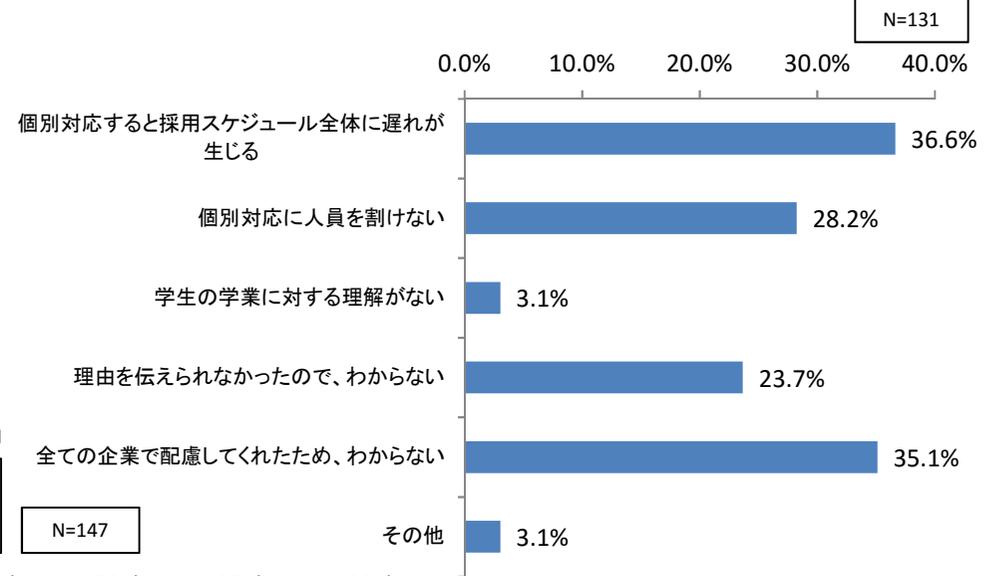
「個別対応すると採用スケジュール全体に遅れが生じる」(36.6%)

「個別対応に人員を割けない」(28.2%)

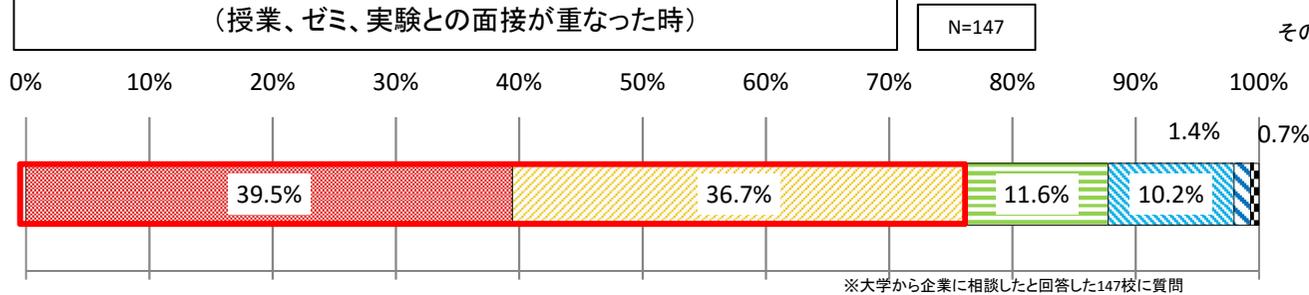
学生からの相談を受け、大学から企業に相談したことはありますか
(授業ゼミ、実験との面接が重なった時)



企業が配慮してくれなかった理由は何ですか
(授業、ゼミ、実験との面接が重なった時)



大学から企業に相談した結果、企業は配慮してくれましたか
(授業、ゼミ、実験との面接が重なった時)



※対象: 大学から企業に相談したと回答した147校に質問。
無回答16校を除外

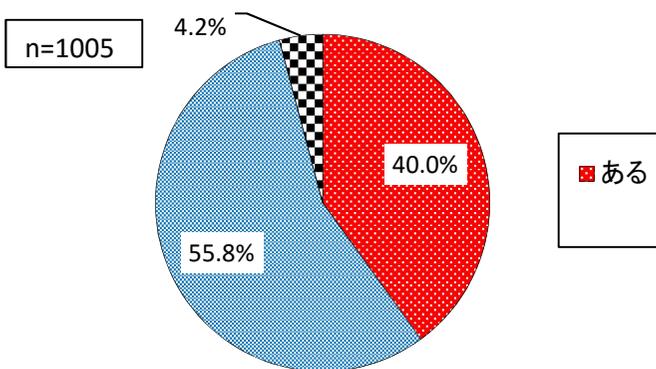
- ほぼ全ての企業で配慮してくれた
- 対応してくれた企業のほうが多い
- 半々程度
- 対応してくれなかった企業のほうが多い
- ほぼ全ての企業が配慮してくれなかった
- 無回答

就職・採用活動におけるハラスメント的な行為

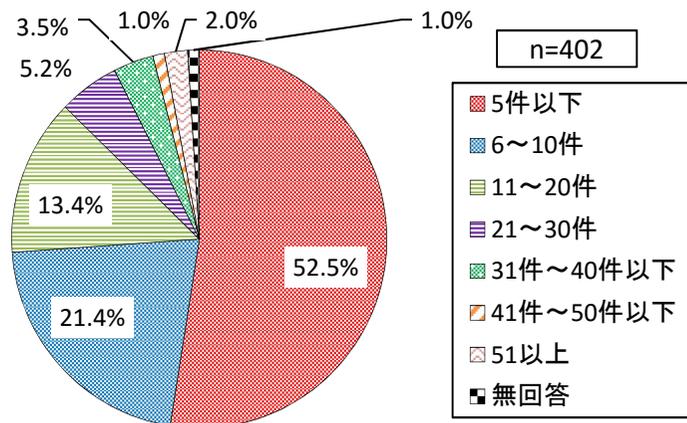
【大学に対する相談の有無と件数】

- ・学生から就職活動におけるハラスメント的な行為について相談を受けた割合は40.0%であった。
- ・相談件数は5件以下が52.5%と最も多く、続いて「6～10件以下」(21.4%)、「11～20件以下」(13.4%)であった。

企業から学生の意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為について、相談を受けたことはありましたか。



ハラスメント的な行為に関する相談件数はおおよそ何件程度でしたか。
(平成28年3月1日から8月1日まで)

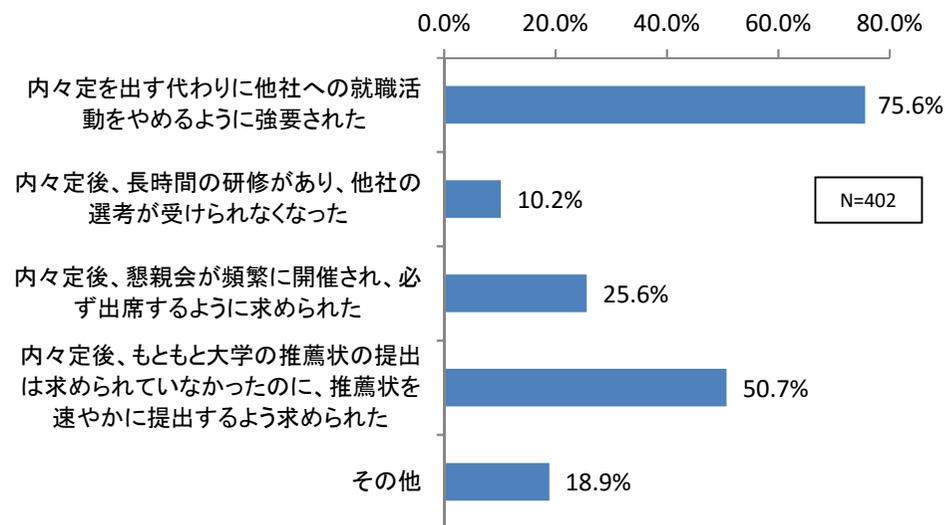


※学生から相談をうけたことがあると回答した402校に質問

【ハラスメント的な行為の内容】

- ① 内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された (75.6%)
- ② 内々定後、もともと大学の推薦状の提出は求められていなかったのに、推薦状を速やかに提出するよう求められた (50.7%)
- ③ 内々定後、懇談会が頻繁に開催され、必ず出席するように求められた。(25.6%)

どのようなハラスメント的な行為について相談を受けましたか



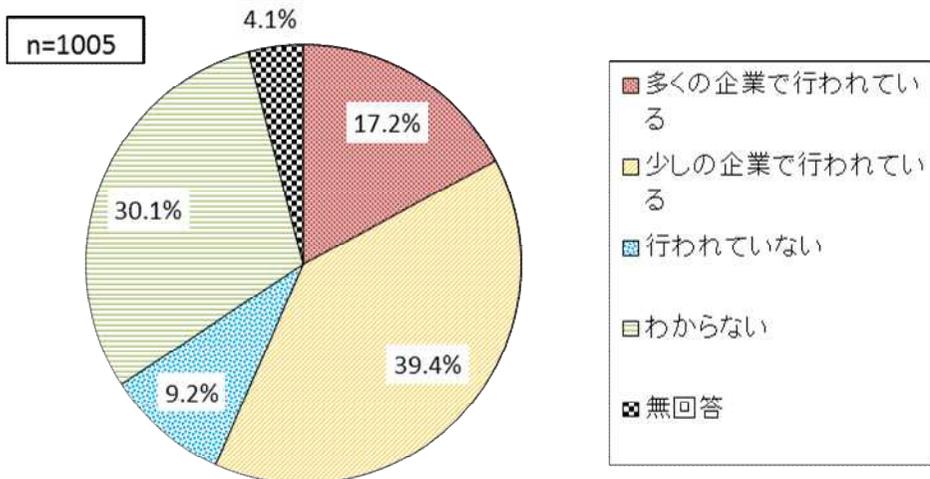
※「当てはまるもの」全て選択
※学生から相談をうけたことがあると回答した402校に質問

採用選考活動における学生評価

【成績を活用した面接の実施状況】

「多くの企業で行われている」「少しの企業で行われている」と回答した大学の合計は56.6%であった。

成績表などを活用した面接が行われていると思いますか。



【企業の採用選考活動において、学生を評価する際に、成績成果(成績や履修履歴等)が重視されているか】

「多くの企業で重視されている」「ある程度重視されている」と回答した大学の合計は40.8%であり、「重視されていない」「あまり重視されていない」と回答した大学の合計は36.1%であった。

企業の採用選考活動は、大学の成績成果が重視されていると思いますか。

